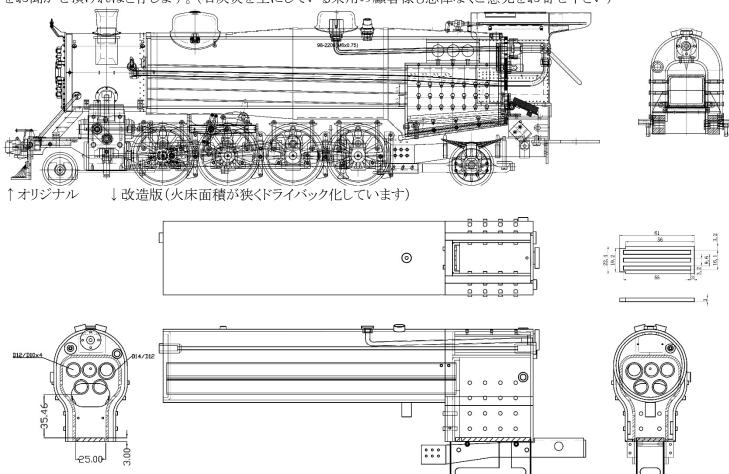
Coal Fire Boiler



# **ASTERHOBBY NEWS LETTER**

### H.Mikodo 石炭焚仕様。

私の提案した基本設計だと、コストが想定以上に高くなるので、可也シンプルに改造されました。(下図参照)只、この簡易型に関し。スイス(やはり機械技術大国です)のドイツ系オーソリティーが、以下のような懸念点を申しております。今日は皆様と価格 (コスト)と販売価格(リテール)の相関性に関して、一緒に考えていきたく、このような内容をお披露目します。忌憚のないご意見をお聞かせ頂ければと存じます。(石炭焚を主にしている乗用の顧客様も忌憚なくご意見をお寄せ下さい)



#### ドイツ系スイス人から表された懸念点:

グリル(火格子)の高さが下がったのは良いことです。(これでブリックアーチは不要でしょう)

しかし、この火格子のサイズにはまだ問題があります。

本当に、とても小さいのです。

設計担当がこれを変更できないと仮定して、以下の点についてコメントさせていただきます。

- 1. 火格子の設計は 140C と同等でなければなりません。 つまり、火格子のバー間に 3mm の隙間を設ける必要があります。
- 2. 下からの十分な酸素供給を確保する必要があります。
- 3. 送風機と補助送風機は非常に効率的でなければなりません。

試験(パイロット)モデルが利用可能になり次第、以下の手順をお勧めします。

- 1. 様々な種類の石炭を使った試験。シーシャ炭、無煙炭、そして入手可能であればウェールズ蒸気炭。
- 2. 瀝青炭や鍛造炭などは、火格子が非常に早く固着するため、絶対に使用しないでください。
- 3. 走行中に火が十分な熱を生み出さなかったり、酸素不足のために消えてしまったりした場合は、送風機のノズルを少し絞る 必要があるかもしれません。これは誘引通風を促進しますが、エンジンへの逆圧も生じます。この手順には、豊富な経験と繊細な感覚が必要です。
- 4. これらのテストが成功した場合、Accucraft はお客様に関連する説明(運転マニュアル)/推奨事項を提供することをお勧めします。(H.ミカドに、石炭で点火する方法等)

意見を募集していて申し訳ございませんが、皆様から頂いた内容が、そのまま。製品に反映する訳ではない事を予めご了承下さい。これは、設計者の教育目的を多分に含んだ、依頼です。ターゲットは K27 の石炭焚を楽しんでいる米国の顧客層です。

# 弁慶(国鉄型7100/USポーター)残念ですが、納期はP2の後です。

今回の、予約価格は、日本人又は日本在住者で日本語が解る方のみキットの特別頒布価格です。リリースは、P2の後になります。国鉄型は、基本予約専用機種なので、お早めにご連絡ください。米国仕様は、米国ナローゲージモデルの、外観的特徴でもある、ゴッツいヘッドライトが、点灯する予定です。その分、国鉄型より、価格が、高くなります。煙突が異なるブラックヒルズ仕様も、予約専用機種です。





## お買い得品です。(税送料は別です)ミカドとバークシャは、現在商談中です!

小型機専用展示ケースもまだ1個残っています(これも投げ売り価格です)でD51のラスト1台はバーゲン品ではありません。

- 1) カニ 2万円(1台限定)D51KIT 未保証品(但し部品は検査し、完備しています)が!足りない部品が在れば、それは有償です。(標準のみ1台限り)皆さん此れ定価、60万円だったのですが、何か半額以下になると勘違いされているバカも多いのですが。その様な考えは改めてください。此れは、ほぼ製品ですから40万円以下なんて販売はしません。
- 3) 安売りする気は、更々御座いませんが、ご相談で提供可能な物は BR62(当時38万円)とバークシャー(昔は、安く出していたのですねえ)のみです。それと、一応フル仕様のサザン鉄道仕様ミカド。是非お気軽に、ご連絡お問い合わせ下さい。サザンミカドに関しては「オーバーホールの必要が無い=現状渡」と、お申し出がある場合は、かなりお安く提供します。











↑バークシャ(現在商談中)